

こんなに地震が！

地震の年表

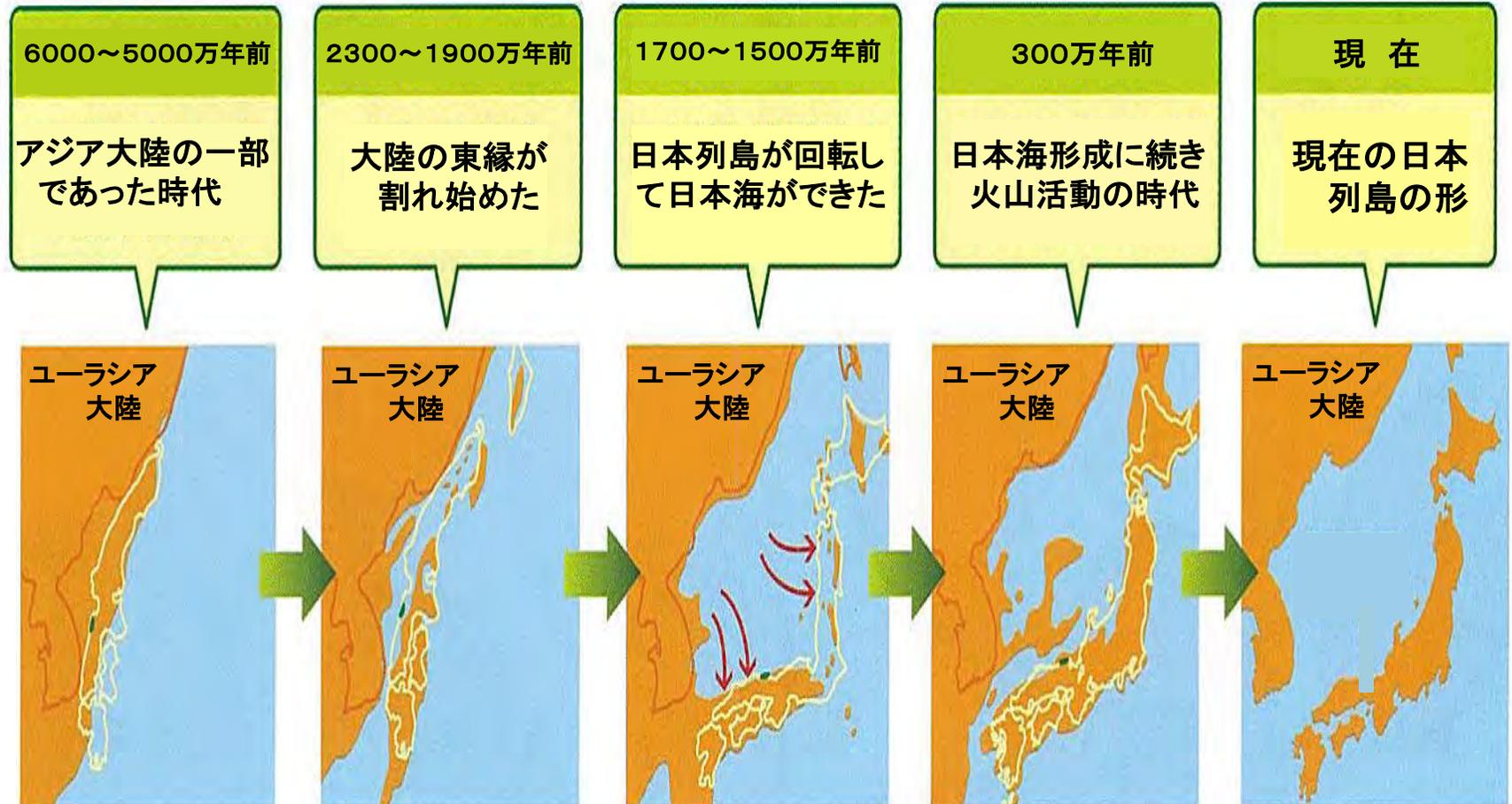
平成31年1月

あいち防災リーダー会
西尾張ブロック一宮支部
NPO法人 日本防災士会
愛知県支部・専門員 近藤 齋

日本列島が誕生し歴史が始まる

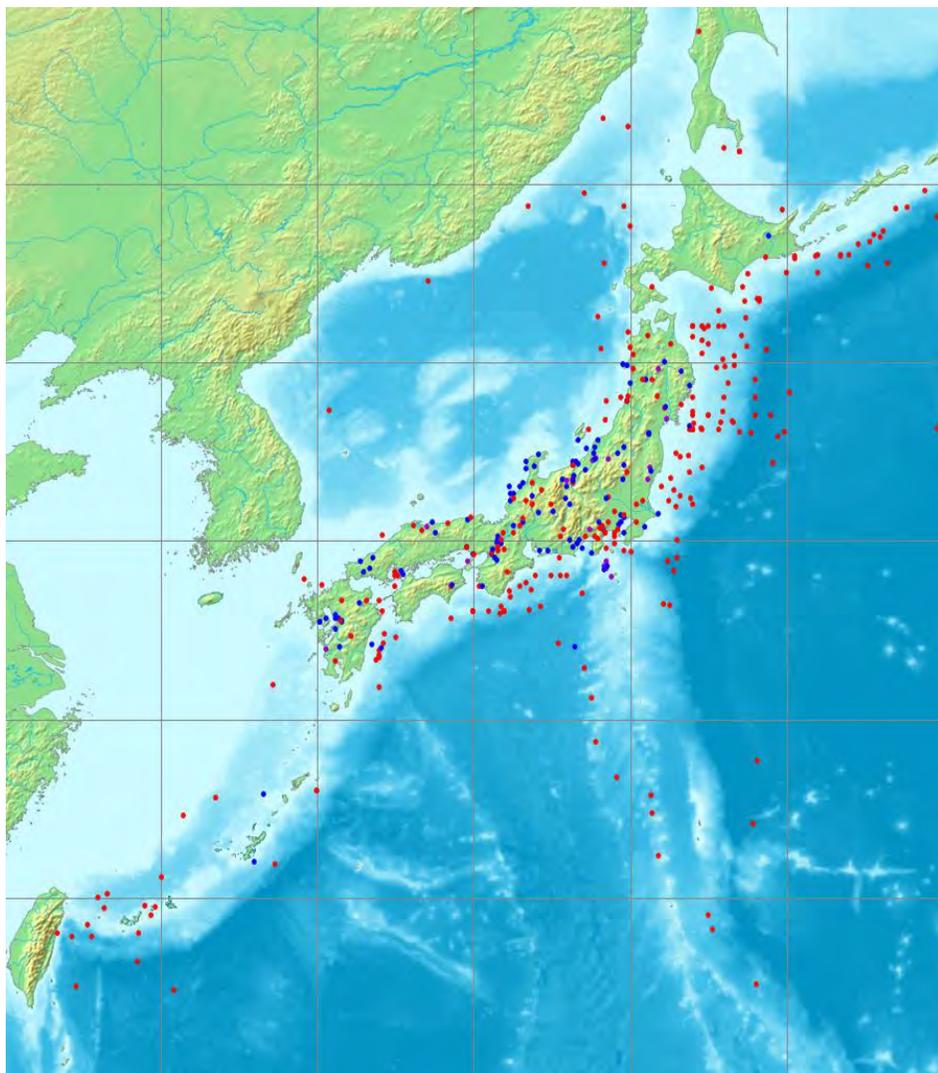
日本列島はこうしてできた！

日本列島は、初めは何もなかったユーラシア大陸の東の海で少しずつ現在の形へと変化してきました。その背景には、地球の表面をおおう「プレート」のいとなみが関係しています。



※ プレートとは地球表層を形づくる、厚さ100キロメートルの岩盤

過去に起きた日本列島の地震



※ M6以上の地震を表示

地震の元凶を鎮める



※大鯰を懲らしめる民衆を描いた鯰絵(1855年安政大地震の後に出版)

南海トラフ「前兆現象」で避難、震源域に促す

臨時情報で想定する前兆となり得る主な現象

半割れケース

M8以上の地震が片側で発生し
もう片側での連動を懸念

連動が心配

南海トラフ東側で大規模
地震(M8以上)が発生

一部割れケース

前震の可能性もある
M7以上の地震が発生

大地震の前兆か

南海トラフで地震
(M7以上)が発生

報告書案に基づく、
住民避難開始までの流れ

南海トラフで前兆現象発生

約
5
分
後

最初の臨時情報
続発地震につながるか調査
を始めたことを発表

最
短
2
時
間
後

2回目の臨時情報
巨大地震が起きる可能性が
高まっている場合、「半割れ」
など3パターンで発表

政府が避難開始を呼びかけ
「1週間程度、対象者は避難を」

政
府
の
呼
び
か
け
後

自治体による避難情報発令

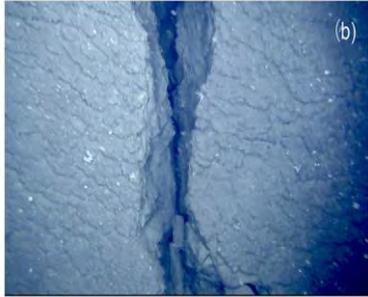
※前兆現象の三つ目のパターンは、「ゆっくりすべり」で観測事例はない。

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
旧石器時代（～紀元前一万四千年頃）	<p>約3万年前 鹿児島湾で大噴火が発生した。始良（あいら）火砕噴火と呼ばれ噴出物の総量は450—500km³と推定される。</p>  <p>活火山とカルデラの分布</p>	<p>始良カルデラ噴火時の火山灰は南九州 30m、高知県宿毛(すくも) 20m、鳥取県大山付近8m、京都 4m、東京10cm、東北数センチと降り積もる。</p>  <p>鹿児島湾(始良カルデラの地形図)</p> <p>※カルデラ噴火とは 大量のマグマが一気に地上に噴出する壊滅的な噴火である。</p> <p>※カルデラとは 火山の中心にできたほぼ円形の大きな凹地で噴火後に火口部が陥没したものが多い。日本では阿蘇山が有名です。</p>	<p>日本列島はユーラシア大陸と陸続きであった(氷河時代) 彼らはマンモス、ナウマンゾウ、オオツノシカなどの大型動物を追いかけて日本列島へやってきました。食糧調達には主に狩猟・採取を行い、石を打ち砕いてつくられた打製石器(材料は黒曜石など)を使用しました。無土器時代とも言われている為、土器はありません。</p> <p>◎氷河時代(約2万年前の氷河期最後の地図)</p>  <p>◎三里塚No.55遺跡出土旧石器時代石器(千葉県)</p> 

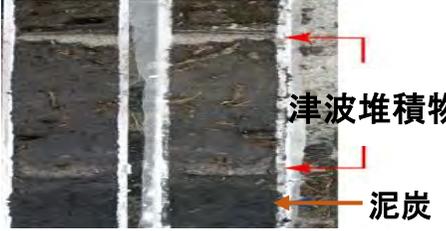
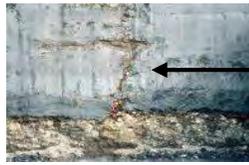
※本誌はM6以上をまとめ掲載してあります。

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
縄文時代(紀元前一万四千年頃〜紀元前四世紀頃)	<p>約7300万年前 鬼界(きかい)カルデラは薩摩半島から約50Km南の大隅海峡に位置し巨大カルデラ噴火を起こした。火山灰に覆われた面積は200万km²、体積は100km³と推定される。</p>	<p>巨大カルデラ噴火は南九州の縄文文化を滅ぼした巨大なもので、地球環境の一部に壊滅的な被害を与える破局的噴火(カルデラ噴火)であった。</p>	 <p>鬼界カルデラの位置</p>  <p>海底の鬼界(きかい)カルデラ 世界最大級の溶岩ドーム</p>
	<p>約6500年〜2千数百年前 高知県土佐市蟹ヶ池の地層の津波堆積物から、この間に1707年の宝永地震に匹敵する巨大地震が11回発生した。</p>	<p>※宝永地震とは 1707年(宝永四年) 江戸時代、五代将軍徳川綱吉南海トラフ連動型地震(M8. 6) 死者約2万人、家屋倒壊約6万戸、49日後に富士山で大噴火</p>	 <p>◎縄文時代 大森貝塚(東京都) 明治10年縄文土器は大森貝塚を発掘したアメリカ人モースによって見出され、縄目文様という発想から命名された「縄文式土器」の用語が定着しました。</p>
	<p>約3400年〜3300年前 静岡県六間川に大谷津波による堆積物が発見された。なお、静岡県にはレベル2に相当する津波は発生していない発表があります。</p>	<p>※津波レベルとは (駿河・南海トラフ沿いで発生) ①レベル1はM8クラスの地震・津波 ②レベル2はM9程度の巨大地震・津波</p>	 <p>◎三内丸山(さんないまるやま)遺跡の大集落跡(青森) 大型竪穴式住居(復元) 六本柱建物(復元) 約780軒にもおよぶ住居跡が確認されています。</p>
	<p>約2000年〜4000年前 関東南部周辺の相模トラフ沿いを震源とした関東地震が少なくとも5回発生した。</p>	<p>※関東地震とは 1923年(大正12年9月1日)に南関東を中心に発生した巨大地震であり相模湾トラフ巨大地震とも総称される。</p>	

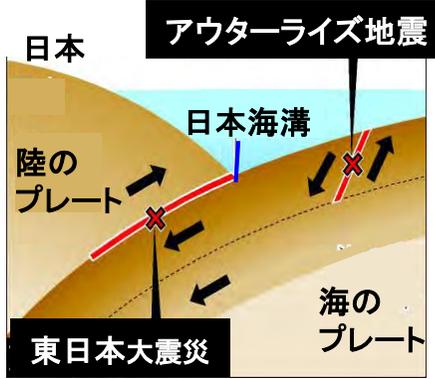
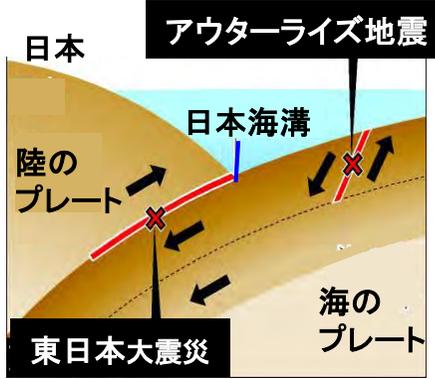
※新石器時代とは、縄文時代の説もあり意見が分かれています。

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
弥生時代(紀元前四世紀頃～二五〇年頃)	<p>200年～2000年前 北海道や東北の日本海沿岸で10～15 mの高さになる津波が過去4回発生した。</p>	<p>日本海側では津波の記録が乏しく、発生状況がよくわかっていない。ロシア側の海岸に開発されていない湿地が多くあり、津波の痕跡が残りやすい点に着目して北海道大学等が調査をした。</p>	 <p>◎弥生式土器1号 1884年(明治17年)東京都文京区弥生の向ヶ岡貝塚で完形の壺が出土した。発見場所の地名をとって「弥生式土器」と呼ばれたことに由来し弥生時代と言われるようになりました。</p>
	<p>紀元前4世紀～紀元前3世紀頃 または、紀元前390年頃に三陸から房総にかけてM9級の超巨大海溝型地震と津波が発生した可能性がある。気仙沼市大谷海岸で津波の堆積物が発見された。</p>	 <p>津波堆積物 泥炭</p>	 <p>漢委奴国王印</p> <p>◎中国の光武帝(こうぶてい、紀元前6年—57年)後漢王朝の初代皇帝で倭奴国王(わのなのこくおう)に漢委奴国王印(かんのわのなのこくおういん)を贈ったとされている金印です。卑弥呼に贈られたとされる親魏倭王印(しんぎわおういん)はどこに？</p>
	<p>琵琶湖西岸でM7.5の地震 滋賀県高島市針江浜(はりえはま)、草津市烏丸崎(からすまざき)、野洲市湯ノ部(ゆのべ)の3遺跡が、この地震による液状化でできたものと推察された。</p>	<p>三遺跡は、液状化で湖中に水没したとみられる。</p>  <p>◎針江浜遺跡 液状化による地面の裂け目</p>	 <p>◎吉野ヶ里遺跡 (よしのがりいせき) 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町の吉野ヶ里丘陵にある遺跡で国の特別史跡に指定されている。大規模な環壕集落跡で知られています</p>
	<p>約2000～2300yBP 三重県大紀町の芦浜池(20cm) 南伊勢町の座佐池(60cm)で南海トラフ地震の津波堆積物が発見された。</p>	<p>津波が池に砂利などの堆積物を運ぶ</p>  <p>海 池</p>	

※yBPとは、(yは年でBP:Before Presentは現在から何年前)放射性炭素年代測定で年代を表す指標

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
弥生時代(紀元前四世紀頃～二五〇年頃)	紀元前後 高知県土佐市蟹ヶ池(海岸から400m内陸)の1900yBPの地層から50cmを越える津波堆積物が発見され、M9級の南海トラフ超巨大地震の発生の可能性があり、過去7千年の16回以上の津波の中で「最大級」と推定されている。	巨大津波の痕跡があった池 	◎弥生時代の特徴 ①弥生土器が使用された ②鉄器や青銅器などの金属器が使用された ③石包丁などの大陸系磨製石器が使用された ④水稻耕作が行われた ①弥生土器とは 弥生土器は素焼きの土器で、貯蔵用の壺[つぼ]・煮るための甕[かめ]・盛りつけ用の高杯[たかつき]が主な器種です。
	95年 福島県岩沼沖でアウターライズ地震で貞観地震(じょうがん)や東北地方太平洋沖地震を超える規模の「東北太平洋沿岸津波」が発生したと推定されている。	※アウターライズ地震とは アウターの意: 外側の ライズの意 : 起き上げる <海溝の外側で起きる地震> 	 壺(つぼ) 甕(かめ) 高杯(たかつき) ②青銅器とは 銅器は朝鮮半島から銅剣・矛(ほこ)・戈(ほこ)・鐸(たく)・鏡が伝えられ、日本独自の発展をとげた。
	210年前後 石川県白山市部入道遺跡の液状化痕跡から震度6強級の地震が発生したと推定されている。	東日本大震災 	③石包丁(磨製石器) ④水稻耕作(農機具) 

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
古墳時代(二五〇年頃〜五九二年)	<p>416年8月22日 (允恭5年7月14日) 允恭地震(いんぎょうじしん) 奈良県明日香村で地震が発生 第19代允恭(いんぎょう)天皇</p>	<p>『日本書紀』に記された記録の残る日本最古の歴史地震。 ※第19代允恭天皇とは 仁徳天皇の第4皇子で飛鳥の地に宮を設けた初めての天皇です。 ※古事記とは(完成:712年) 発起人:天武天皇 目的:国内向けに天皇家の歴史と正当性を示す 構成:全3巻 ※日本書紀とは(完成:720年) 発起人:天武天皇 目的:国際的に国家成立・歴史の正当性を示す 構成:全30巻と系図1巻</p>	<p>◎古墳時代とは 一般的には古代の墳墓(ふんぼ)という意味をもっているが、「墳」の字には土を盛り上げた墓という意味がある 古墳とは、日本の古代、ことに弥生(やよい)時代終末の西暦3世紀後半に出現し、7世紀末ごろまでに築造された高塚の墳墓を古墳とよんでいます。 ◎前方後円墳(仁徳天皇陵) ◎竪穴式(たてあな)住居</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
	<p>4世紀〜5世紀頃または430年頃 三陸から房総にかけてM9級の超巨大海溝型地震と津波が発生した可能性がある。 宮城県気仙沼市大谷海岸で津波による堆積物が発見された。</p>	<p>※約1000年おきに並ぶ堆積物の層</p>  <p>宮城県大谷海岸の地層</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1203 932 1446 1315"> <p>◎埴輪</p>  </div> <div data-bbox="1466 932 1709 1315"> <p>◎女子(衣裳)</p>  </div> <div data-bbox="1730 932 1980 1315"> <p>◎朝鮮半島</p>  </div> </div>

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
飛鳥時代(五九二年～七一〇年)	<p>599年5月26日 (推古7年4月27日) 推古地震(すいこじしん) 大和国(奈良県)でM7の地震が発生した。 第33代推古天皇(すいこてんのう)</p>	<p>『日本書紀』に家屋倒壊と記された記録の残る日本初の震災記録</p> <p>※第33代推古天皇とは 古代の天皇の最初の女帝。 欽明(きんめい)天皇の皇女。 592年崇峻(すしゅん)天皇が蘇我馬子に殺されると蘇我氏の出として擁立されて即位し、甥の聖徳太子を摂政(せつしょう)として国政を行った。</p> <p>※聖徳太子とは 用明天皇の皇子で名を厩戸(うまやど)皇子と言われた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①仏教を取り入れ厚く信仰 ②十七条憲法を定める ③冠位十二階を定める ④天皇を中心とした中央集権国家体制の確立を図る ⑤遣隋使を派遣 <p>※蘇我馬子(そがのうまこ) 有力豪族で、4代の天皇に仕え50年以上にわたって大臣(おおおみ)を務め蘇我家の繁栄を築いた。</p>	<p>◎飛鳥時代とは 「飛鳥:あすか」という語源については外来語由來說、地形名称由來說などがあるがはっきりとしたことはわかっていない。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①奈良盆地南東部の歴史的地名。明日香とも書く飛鳥の用字は枕詞(飛ぶ鳥の)をあてたもの。 ②現在の奈良県高位郡明日香村付近に相当する「飛鳥」の地に宮・都が置かれていたとされることに由来する。 <p>◎聖徳太子の新しい国づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> ①仏教を保護と拡大 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>法隆寺</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>法隆寺・夢殿</p> </div> </div> <ol style="list-style-type: none"> ②十七条憲法の制定(抜粋) 一曰。以和為貴。無忤為宗。人皆有党。亦少達者。是以或不順君父。乍違于隣里。然上和下睦。諧於論事。則事理自通。何事不成。 ③冠位十二階 この制定により人材登用の道が開かれ朝廷に仕える臣下を12の等級に分け、地位を表す冠を授けるものである。 ④遣隋使を派遣 倭国が技術や制度を学ぶために隋に派遣した朝貢使のことを言い、小野妹子(おののいもこ)達が任をはたした。

日本における大地震の歴史

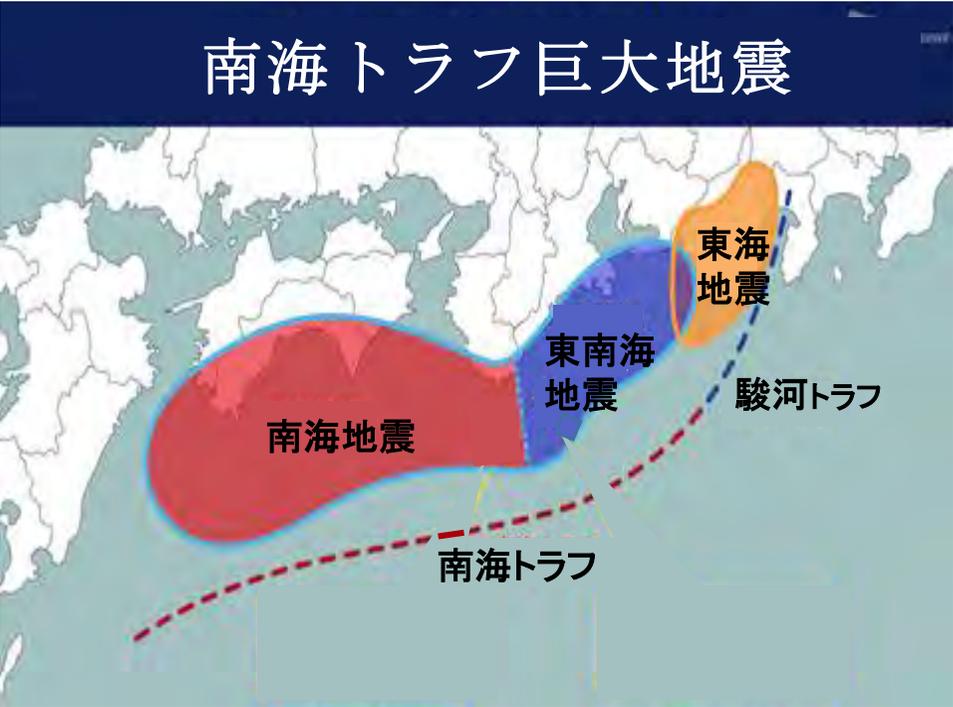
時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
飛鳥時代(五九二年〜七一〇年)	<p>679年初頭(天武7年12月) 筑紫地震(つくしじしん) 筑紫国(福岡県)でM6.5~7.5 の地震が発生した。 第40代天武天皇(てんむてんのう)</p>	<p>『日本書紀』に震源域がほぼ判明 してるものとしては日本最古の歴 史地震である。 巾2丈(約6m)、長さ3000丈余 (約10km)の地割れが発生村々 の民家が多数破壊されました。また、丘が崩れた。</p> <p>※第40代天武天皇とは 舒明(じょめい)天皇の皇子で 中大兄(なかのおおえの)皇子 の弟で壬申の乱に勝利をして 天武(てんむ)天皇になった。 大王(おおきみ)・倭国(わこく) を天皇と日本と改めた。</p>	<p>◎大化の改新(645年) 中大兄皇子(なかのおおえのおうじ)・中臣鎌足(なかと みのかまたり)らが蘇我蝦夷(そがのえみし)・入鹿(いる か)父子を滅ぼした。中大兄皇子は公地公民制、地方行 政組織の確立、戸籍・計帳の作成と班田収授法の施行、 租・庸・調の統一的税制の実施を中心とした改新の詔 (みことのり)を發布し、氏姓制度による皇族・豪族の支配 を否定して、中央集権的支配の実現へと向かった。 後の天智(てんじ)天皇と藤原鎌足(ふじわらのかまたり)</p> <p>◎服装</p> <p>文官朝服 貴族女子 庶民</p> 
	<p>684年11月26日(天武13年10月) 白鳳地震(はくほうじしん)及び天武 地震とも呼ぶMw8~9の南海トラ フ全域が震源域となった可能性が 高い巨大地震であった。</p>	<p>『日本書紀』に日本最古の津波記 録がある地震である。 死者多数、土佐で津波により大き な被害、田園(約12Km²)が海面 下へ沈下。</p>	<p>◎食事</p> <p>貴族 下級役人 庶民</p> 
	<p>701年5月8日(大宝元年3月26日) 大宝地震(たいほうじしん) 京都北部で地震が発生した。 第42代文武天皇(もんむてんのう)</p>	<p>京都府を中心とした日本海側の 地域に津波の伝承が残っている。</p>	

※租庸調(そようちょう)とは、租は米・庸は労働・調は麻等を納める。

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
奈良時代(七一〇年〜七九四年)	<p>715年6月30日・7月1日 (和銅8年5月25日・26日) 遠江国地震(とおとうみのくにじしん) 静岡・愛知県でM6.5~7.5の地震が発生した。 第43代女帝元明(げんめい)天皇</p>	<p>遠江国で正倉47棟が倒壊し、天竜川が塞き止められ、数十日後に決壊して洪水を起こした。民家170区画以上が水没。農作物にも大きな被害が生じたという。</p>	<p>◎奈良時代とは 奈良市に都のあった74年間をいう。天皇を中心とする政府がここにあったので、地名をとって時代の名称とした、奈良の都の公式の名称は平城京であるが、奈良とよばれる地にあったので、一般には奈良の都という。</p>
	<p>734年5月14日 (天平6年4月7日) 畿内七道地震(きないしちどうじしん) 畿内(大和、山城、摂津、河内、和泉)七道(東海道、東山道、北陸道、山陽道、山陰道、南海道、西海道)でM7の地震が発生した。 生駒断層直下型。 第45代聖武天皇(しょうむてんのう)</p>	<p>家が倒壊し圧死者が多数出、山崩れ、川の閉塞、地割れが数えきれないほど発生した。</p> <p>※聖武天皇とは 743年「墾田永年私財法」を發布して墾田の開発を公認してその促進をはかった、同じ年に東大寺の大仏建立を命じる。</p>	<p>◎大宝律令(たいほうりつりょう)の制定 701年に古代国家の基本法である律と令。律は刑罰についての規定、令は政治・経済など一般行政に関する規定である。</p> <p>◎日本で最初の流通貨幣(708年) 和同開珎(わどうかいほう・かいちん)</p> <div data-bbox="1253 768 1487 996" data-label="Image"> </div> <p>律令政府が定めた通貨単位である1文(もん)として通用した。当初は1文で米2kgが買えたと言われ、また、新成人1日分の労働力に相当した。</p>
	<p>745年6月1日 (天平17年4月27日) 天平地震(てんぴょうじしん) 岐阜県美濃地方でM7.9の地震が発生した。 第45代聖武天皇</p>	<p>岐阜美濃で最大級の内陸直下地震が発生したとされる。この震源は養老断層とする説がある。</p> <div data-bbox="721 1078 1156 1330" data-label="Image"> </div>	<p>◎平城京に遷都(710年)</p> <div data-bbox="1253 1071 1487 1310" data-label="Image"> </div> <p>元明天皇が藤原京から遷都した。平城京は唐の長安京の都城制を模してつぐられ、南北9条(約4.8km)東西8坊(約4.3km)の面積をもち全域72坊に区画設定されている。中央北域に大内裏を置いた。</p>

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
奈良時代(七一〇年～七九四年)	<p>762年6月5日(天平宝字:てんぴようほうじ6年5月9日) 美濃・飛騨・信濃でM7以上の地震が発生した。 第47代淳仁(じゅんにん)天皇</p>	<p>糸魚川ー静岡構造線活断層帯で発生したM8クラスの地震の可能性がある。</p>	<p>◎奈良の東大寺(大仏殿)の大仏像 東大寺盧舎那仏像(とうだいじるしゃなぶつぞう)</p>  <p>大仏造立(ぞうりゅう)は天然痘、干ばつ・飢饉(ききん)が続き、天平6年には大地震で大きな被害があり、社会不安にさらされた時代であった。国を安定させたいという背景が推測されている。</p>
	<p style="text-align: center; background-color: #002060; color: white; padding: 5px;">南海トラフ巨大地震</p>  <p>※トラフとは細長い飼い葉桶の意で、水深が7000m以下で幅の広い凹地です。</p>	<p>◎服装</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>貴族の男子</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>貴族女子</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>庶民</p>  </div> </div> <p>◎食事</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>貴族</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>農民</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>◎竪穴住居 農民</p>  </div> </div>	

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
平安時代(七九四年～一一八五年)	818年8月(弘仁9年7月) 弘仁地震(こうにんじしん) 関東内陸でM7.9の液状化を伴う地震が発生した。 第52代嵯峨(さが)天皇	関東地方に未曾有の大地震が襲った。山が崩れ谷を数里にわたって埋めた。圧死した人々がどれほどいたか、計り知れない。	◎平安時代とは 桓武天皇の遷都を機会に新京ができて異口同音に「平安の都」と呼んでいるから、この都を「平安京」と名付けることとするといわれている。「京」とは、皇居のある都。
	827年8月7日 (天長:てんちょう4年7月12日) 京都でM6.5～7の地震が発生した 第53代淳和(じゅんな)天皇	詳細は不明	◎平安京の地図
	830年1月30日(天長7年1月3日) 出羽でM7～7.5地震が発生した。	詳細は不明	 <p>平安京全体図</p> <p>大内裏、朱雀門、朱雀院、神泉苑、右京、左京、西市、東市、朱雀大路、西寺、東寺</p>
	841年前半 (承和:じょうわ8年5月3日) 伊豆でM7の地震が発生した。 第54代仁明(にんみょう)天皇	死者多数	
	※第50代桓武(かんむ)天皇とは 光仁天皇の皇子で天智天皇の孫であった。奈良時代の仏教政治の弊を除くため、僧の不法を取り締まり、最澄や空海を起用して新仏教を興させた。延暦13年に平安京を開き、奥羽の蝦夷平定のため坂上田村麻呂(さかのうえのたむらまろ)を将軍として遠征させた。	※第52代嵯峨天皇とは 桓武(かんむ)天皇の皇子で日本の書道史上三人の能筆家の一人である。他の二人は橘逸勢(たちばなのはやなり)・空海で三人を特に三筆(さんびつ)と称する。	
			◎人物 ※空海(くわい、諡号:弘法大師) 生年:774年 平安時代初期の僧で高野山に金剛峯寺(こんごうぶじ)を立て真言宗の開祖となった。 ※最澄(さいちょう、諡号:伝教大師) 生年:767年 平安時代初期の僧で比叡山延暦寺を立て天台宗の開祖となった。

※諡号(しごう)とは、貴人、僧侶の死後、その人の生前の行ないをほめたたえておくる名。

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
平安時代 (七九四年～一一八五年)	850年11月23日 (嘉祥:かしょう3年10月16日) 出羽国地震(でわのくにじしん) 山形県沖でM7の地震が発生した。 第55代文徳(もんとく)天皇	国府の城柵が壊れ、圧死者多数。 最上川の岸が崩壊、津波発生。	◎人物 ※清少納言(せいしょうなごん、平安中期の女流歌人) 「枕草子」の作者で人生や自然、外界の事物の断面を鋭敏な感覚で描く、全三巻の随筆である。 (第一段 春はあけぼの) 春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎはすこしあかりて、むらさきだちたる雲のほそくたなびきたる。 ※紫式部(むらさきしきぶ、平安中期の女流作家・歌人) 「源氏物語」の作者で世界最古の長編小説と言われる。天皇の子・光源氏を主人公に、貴族たちの恋愛と人生を描いた。
	863年7月6日 (貞観:じょうがん5年6月17日) 越中・越後で地震が発生した。 第56代清和(せいわ)天皇	圧死者多数	
	864年 (貞観:じょうがん6年5月) 富士山大規模噴火、阿蘇山噴火 第56代清和(せいわ)天皇	富士山噴火で現在の富士五湖のうち2つ、西湖と精進湖を作りだしました。溶岩流の上に1100年の時を経て青木ヶ原樹海の森林地帯が出来ました。噴出物の総量は約14億 m^3 にもなります。	
	867年11月16日 (貞観9年10月13日) 陸奥国で大地震が発生した。 第56代清和(せいわ)天皇	西湖  精進湖 	
	868年7月30日 (貞観10年7月8日) 播磨国でM7の地震が発生した。 第56代清和(せいわ)天皇	青木ヶ原樹海 	



光る君の誕生

<源氏物語>
54巻で全編を三部構成と見る説が有力である。第一帖の1は桐壺(きりつぼ)から始まる。
【冒頭 第一帖 桐壺】
いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひ給ひけるなかに、いやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時き給ふありけり。

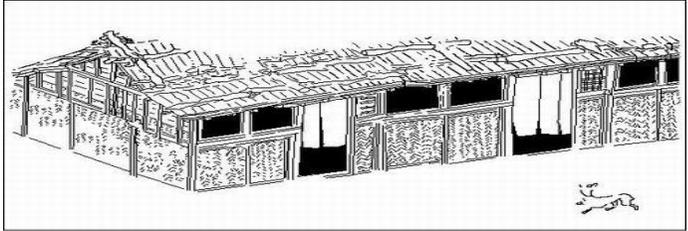
日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
平安時代(七九四年～一一八五年)	<p>869年7月9日 (貞観:じょうがん11年5月26日) 陸奥国(東北方面で秋田・山形除く)でM8.3~8.6の大地震が発生した(貞観地震) 第56代清和(せいわ)天皇</p> <p>※大地に呪われた天皇</p> <div data-bbox="196 735 1149 1320" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: right;">清和天皇と 災害</p> <p>八五〇年 誕生</p> <p>八四八年 即位(九歳)</p> <p>八四四年 富士山噴火</p> <p>八四六年 応天門の變</p> <p>大干ばつ</p> <p>八六七年 別府鶴見岳</p> <p>阿蘇山の噴火</p> <p>八六八年 京都で有感地震二二回</p> <p>八六九年 肥後津波地震 貞観大地震</p> <p>八七一年 出羽鳥海山の噴火</p> <p>八七二年 京都で有感地震 十五回</p> <p>八七三年 京都で有感地震 十二回</p> <p>八七四年 京都で有感地震 十三回</p> <p>開聞岳噴火</p> <p>大極殿が火災で焼失 讓位</p> <p>関東で相模・武蔵地震</p> <p>出家</p> <p>八七九年 京都で有感地震 十二回</p> <p>八八〇年 京都で地震が多発 三一回 死去(享年三十一)</p> </div>	<p>東北地方の太平洋沖で発生した巨大地震。この日、陸奥国(むつのくに)で大地震があり、強い揺れで立つこともできず、倒れた家屋の下敷きになって圧死した者や、地割れに飲み込まれた者もいた。また、城下に大津波が押し寄せ、1000人ほどが溺死し、後には田畑も人々の財産もほとんど残らなかったという。</p>	<p>◎人物</p> <p>※源氏(げんじ、みなもとうじ)とは 皇族が臣下の籍に降りる(臣籍降下)際に名乗る氏の一つで第52代嵯峨天皇の直系の子孫は「源」、姓(かばね)を朝臣(あそん)を授けた。 814年(弘仁5年)嵯峨天皇が「源朝臣」の姓を与え皇子を臣籍に下した。</p> <p>※平氏(へいし、たいらうじ)とは 嵯峨天皇の兄弟の子どもやそのまた下の子どもには「平」、姓(かばね)を朝臣を授けた。 桓武天皇の皇子の子孫が平姓を与えられ臣籍に降下したのに始まる。</p> <p>※法然(ほうねん、平安末期の浄土宗の開祖) 1175年専修念仏の教えを唱えて浄土宗を開いた。京都東山の吉水に庵を結んで布教に努め、主に武士・農民の帰依を得た。旧仏教からの激しい圧迫を受け、1207年専修念仏は停止され四国に流されたが、のち許されて帰洛。著「選択本願念仏集」など。門下に親鸞などを輩出した。</p> <div data-bbox="1263 1128 1543 1320" style="float: left; margin-right: 10px;">  </div> <p>法然は「真実にねがひて、常に念仏申を最上の機とす」といい、念仏によつてこそ極楽往生できると説いた。</p>

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
平安時代 (七九四年～ 一一八五年)	878年10月28日 (元慶:がんぎょう2年9月29日) 相模・武蔵でM7.4の地震が発生 第57代陽成(ようぜい)天皇	死者多数	<p>◎人物</p> <p>※菅原道真(すがわらのみちざね、平安中期、漢学者) 宇多天皇の信任を得、藤原氏を抑えるために重用された。寛平:かんぴょう3年(891年)蔵人頭。その後、権大納言を経て昌泰:しょうたい2年(899年)右大臣となったが、同4年藤原時平のために大宰府に左遷された。後世、天神様として尊崇(そんすう)された。</p> <p>東風吹かば 匂ひおこせよ 梅の花 あるじなしとて 春な忘れそ</p>  <p>道真、邸の紅梅に別れを惜しむ</p> <p>※藤原道長(ふじわらのみちなが、平安中期、廷臣) 娘三人(彰子・妍子・威子)を立后させて三代の天皇の外戚となり摂政として政権を独占、藤原氏の全盛時代を現出した。1019年出家、法成寺を建立。</p>
	880年11月19日 (元慶:がんぎょう4年10月14日) 出雲でM7の地震が発生した。 第57代陽成(ようぜい)天皇	詳細は不明	
	886年6月29日 (仁和:にんな2年5月24日) 伊豆諸島噴火、安房(あわ、千葉県南部)の国で降灰と地震が発生した 第58代光孝(こうこう)天皇	詳細は不明	
	887年7月29日 (仁和3年7月6日) 京都でM6.5の地震が発生した。 第58代光孝天皇	越後西部で津波による溺死者が1000人にのぼったとされる。	
	887年8月22日 (仁和3年7月30日) 五畿七道諸国でM8～M8.5の地震が発生した。(仁和地震) 第58代光孝天皇	南海トラフ全域?五畿七道諸国大震、京都・摂津を中心に死者多数津波あり。南海道沖の地震の記録だが地質調査によればほぼ同時期に東海道沖も震源域となった可能性あり。津波堆積物からM9クラスの説もある。	

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
平安時代(七九四年～一一八五年)	938年5月17日 (承平:じょうへい8年4月15日) 京都でM7の地震が発生した。 第61代朱雀(すざく)天皇	死者あり、高野山でも建物損壊 その後も余震が多く、8月6日に 大きな地震が発生した。	◎住居 ※庶民 竪穴式住居(一般庶民)
	976年7月17日 (天延:てんえん4年6月18日) 山城・近江でM6.7以上の地震が 発生した。 第64代円融(えんゆう)天皇	死者50人以上	
	1026年6月10日 (万寿:まんじゅ3年5月23日) 石見国(いわみのくに)、島根県益 田市の日本海沖でM7.5～7.8 の巨大地震・津波が発生した。 (万寿地震) 第68代後一条(ごいちじょう)天皇	大津波が沿岸の各村落に襲来 して未曾有の被害をもたらした との口碑がある。死者1000人 以上と推定される。同時期の津 波堆積物と思われる層を確認 する。	板敷きの家屋(都の庶民)
	1088年6月4日 (寛治:かんじ2年5月13日) 岩手県宮古市の辺りに9回地震・ 大津波が3回来襲した。 第73代堀河(ほりかわ)天皇	詳細は不明	
			※武士 

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
平安時代 (七九四年～一一八五年)	1096年12月11日 (嘉保:かほう3年11月24日) 東海道沖の地震または南海トラフ 全域でM8～8.5地震が発生した。 (永長地震:えいちょうじしん) 第73代堀河(ほりかわ)天皇	死者1万人以上と推定、東大寺 の鐘が落下、伊勢・駿河で津波 による大きな被害が出た。	◎住居 ※貴族(寝殿造り) 
	1099年2月16日 (承德:じょうとく3年1月24日) 西日本でM6.4～8.5の地震発生 第73代堀河(ほりかわ)天皇	興福寺、天王寺に被害、死者 不明。地殻変動により土佐で 田畑海没。津波被害は不明。	◎服装 貴族の女子 武士 民衆の婦人 
	1154年9月19日 (仁平:にんぺい4年8月10日) 富山県付近で地震、新川郡で陥没 第76代近衛(このえ)天皇	死傷者多数	◎食事 貴族 庶民 

※日本人口の推移



日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
鎌倉時代（一一八五年～一三三三年）	1185年8月6日 （元暦：げんりやく2年7月9日） 京都付近でM7.4の地震が発生した。（文治地震：ぶんじじしん） 初代将軍源頼朝	死者多数 法勝寺や宇治川の橋など損壊 余震が2ヶ月ほど続く	◎鎌倉時代とは  源頼朝（みなもとのよりとも）は武家政治の創始者で征夷大將軍を拝し鎌倉に幕府を開いた。源義経とは異母兄弟です。
	1241年5月15日 （仁治：にんじ2年4月3日） 鎌倉でM7の地震が発生した。 第3代執権北条泰時（やすとき）	津波を伴い由比ヶ丘大鳥居内 拝殿が流失した。	◎執権（しっけん）北条氏とは 將軍を補佐し、幕政を統轄した職で鎌倉幕府の事実上最高責任者である。
	1245年8月19日 （寛元：かんげん3年7月26日） 京都で震度5以上の地震が発生 第4代執権北条経時（つねとき）	破損多し	◎鎌倉大仏 高德院（こうとくいん）は、神奈川県鎌倉市長谷にある浄土宗の寺院。本尊は「鎌倉大仏」「長谷の大仏」として知られる阿彌陀如来坐像（国宝）。
	1257年10月2日 （正嘉：しょうか元年8月23日） 相模湾でM7～7.5の地震が発生した。（正嘉地震） 第6代執権北条長時（ながとき）	関東南部に大きな被害 三陸沿岸に津波襲来	

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
鎌倉時代(一一八五年～一三三三年)	<p>1293年5月20日 (正応:しょうおう6年4月13日) 鎌倉でM8クラスの相模トラフ巨大地震との説がある。 (鎌倉大地震) 第9代執権北条貞時(さだとき)</p>	<p>建長寺を代表として多数の神社仏閣が倒壊し、多数の土砂災害などが発生し2万3000人ももの死者が発生したとされている。</p> 	<p>◎第8代執権北条時宗(ときむね)国難に立ち向かう</p>  <p>世界帝国であったモンゴル帝国の2度にわたる元寇(げんこう)を退けた。また、禅宗に帰依して宋から無学祖元(むがく そげん)を招き、円覚寺の開山とした。</p> <p>※元寇(げんこう)とは 元寇の呼称は、江戸時代に徳川光圀が編纂を開始した「大日本史」が最初の用例で、対日本侵攻の文永の役(ぶんえいのえき)と弘安の役(こうあんのえき)を言う。寇(こう)とは、外から侵入して害を加える賊を意味する。</p>
	<p>1299年5月25日 (正安:しょうあん元年4月25日) 大阪・京都で震度5以上の地震発生 第9代執権北条貞時(さだとき)</p>	<p>南禅寺金堂倒れる</p>	<p>※文永の役(1274年、文永11年10月20日)</p>  <p>軍船900隻、兵士2万6千人のモンゴル軍が敵情視察と威嚇攻撃に過ぎず1日で撤退する計画だったと考えられている。</p>
	<p>1317年2月16日 (正和:しょうわ6年1月5日) 京都でM6.5～7の地震が発生 2月22日にも震度6とみられる大地震が発生した。 第14代執権北条高時(たかとき)</p>	<p>清水寺出火、死者5人</p>	<p>※弘安の役(1281年、弘安4年6月6日)</p>  <p>軍船4400隻、兵士14万の大軍で博多湾に入ったが、石塁にはばまれ上陸できなかった。暴風雨よって壊滅した。</p>

日本における大地震の歴史

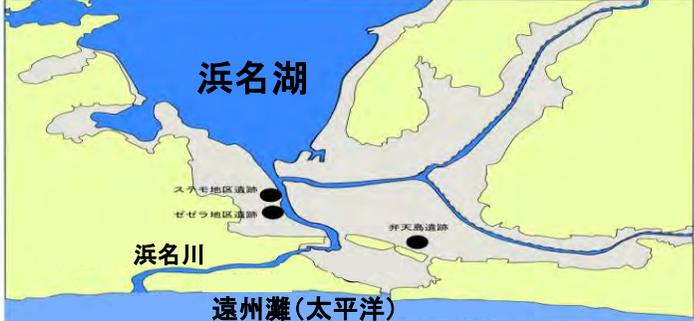
時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
鎌倉時代 (一一八五年～一三三三年)	1325年11月27日 (正中:しょうちゅう2年10月21日) 滋賀県と福井県の県境付近でM6.5の地震が発生した。 (正中地震) 第14代執権北条高時(たかととき)	琵琶湖の北方で山崩れが生じ、竹生島(ちくぶしま)では寺院の奥ノ院が倒壊し湖水に没入、あるいは竹生島が崩壊し島の半分が湖水に没したとも言われています。	◎住居 庶民  武士 
	1331年8月7日 (元弘:げんこう元年7月3日) 紀伊でM7以上の地震が発生した。 第16代執権北条守時(もりとき)	詳細は不明	◎服装 庶民  武家の女性 
	1331年8月11日 (元弘:げんこう元年7月7日) 駿河でM7の地震が発生した。 (元弘地震) 第16代執権北条守時(もりとき)	詳細は不明	◎食事 庶民  武士 
	<p>※鎌倉時代の五箇伝の名刀工と刀剣 刀剣の産地として特に有名なものが、「五箇伝(ごかでん)」と呼ばれる大和(奈良)・山城(京都)・備前(岡山)・相州(神奈川)・美濃(岐阜)の5つの地域です。</p>  <p>国宝 短刀 無銘 正宗 名物 庖丁正宗 徳川美術館蔵</p>		

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
室町時代（一三三六年～一五七三年）	1361年7月26日 （正平：しょうへい16年6月24日） 南海トラフの地震、震源域諸説あり M8. 2～8. 5の地震が発生した。 （正平・康安地震） 第2代将軍足利義詮（よしあきら）	死者多数 摂津・阿波・土佐で津波により大きな被害	◎室町時代とは  足利尊氏（あしかがたかうじ）は建武式目（けんむしきもく）を室町幕府の政治要綱として示し幕府を開き征夷大将軍になった。
	1408年1月12日 （応永：おうえい14年12月14日） 紀伊・伊勢でM7～8の地震が発生した。（応永地震） 第4代将軍足利義持（よしもち）	熊野本宮の温泉湧出が80日間止まる。	◎第3代将軍足利義満  室町は義満が京都北小路室町に造営した花の御所（室町殿）に由来する。 金閣寺は義満が京都の北山に山荘を造営したのが始まりで、正式名称は鹿苑寺（ろくおんじ）の舍利殿「金閣」が有名です。
	1433年10月28日 （永享：えいきょう5年9月16日） 関東でM7以上の地震が発生した。（相模地震） 第6代将軍足利義教（よしのり）	死者多数 津波により利根川が逆流した。	◎雪景色の銀閣寺  第8代将軍足利義政の山荘東山殿（どの）の観音殿は銀箔を押し出す計画があったところから「銀閣」と呼ばれるようになった。
	1449年5月4日 （文安：ぶんあん6年4月12日） 山城・大和でM5～6. 5の地震発生 将軍は空位	死者多数	

※建武式目とは、足利尊氏が、1336年（建武3年）政治方針を御家人たちに示すために発した一七条の法令。

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
室町時代（一三三六年～一五七三年）	1454年12月12日 （享徳：きょうとく3年11月23日） 会津で強震、奥州海岸に大津波が押し寄せた。M8. 4と推定される。 （享徳地震） 第8代将軍足利義政（よしまさ）	大津波で多くの人々が流された	◎明応地震 ※津波により陸地が決壊し浜名湖が汽水湖となった。  <ul style="list-style-type: none"> ■ 明応地震後消滅した陸地 ■ 明応地震後の陸地
	1474年終盤～1475年初頭 （文明：ぶんめい6年冬） 京都で大地震が発生した。 第9代将軍足利義尚（よしひさ）	詳細は不明	※津波で破壊された鎌倉大仏殿 
	1498年6月30日 （明応：めいおう7年6月11日） 大分県でM7～7. 5の地震が発生した。（日向地震） 第11代将軍足利義澄（よしずみ）	死者多数 同日、畿内でも地震	
	1498年9月11日 （明応：めいおう7年8月25日） 東海道沖でM8. 2～8. 4の巨大地震が発生した（明応地震） 第11代将軍足利義澄（よしずみ）	死者3～4万人以上 伊勢・駿河などで津波で大被害 浜名湖が海とつながる 鎌倉高德院の大仏殿が流される 南海トラフ巨大地震と推察される （三連道地震）	

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
室町時代（一三三六年～一五七三年）	1502年1月18日 （文亀：ぶんき元年12月10日） 新潟県直江津でM6.5～7の地震が発生した。（越後地震） 第11代将軍足利義澄（よしずみ）	死者多数	◎室町文化 雪舟 国宝「秋冬山水図」 
	1510年9月11日 （永正：えいしょう7年8月8日） 摂津・河内でM6.5～7の地震が発生した。（摂津・河内地震） 第10代将軍足利義植（よしたね）	死者多数 余震が2ヶ月あまり続く	◎住居 庶民  武士（書院造り） 
	1520年3月25日 （永正：えいしょう17年3月7日） 紀伊・京都でM7程度の地震が発生（永正地震） 第10代将軍足利義植（よしたね）	熊野・那智の寺院破壊 津波あり	
	※応仁の乱とは（1467～1477年） 	将軍足利義政の跡継ぎ問題等で細川勝元と山名持豊の守護大名が11年間戦った内乱である。戦乱は地方に拡散し、戦国時代を現出し京都は荒廃し、以後幕府の権威は失墜した。	◎食事 庶民  武士 

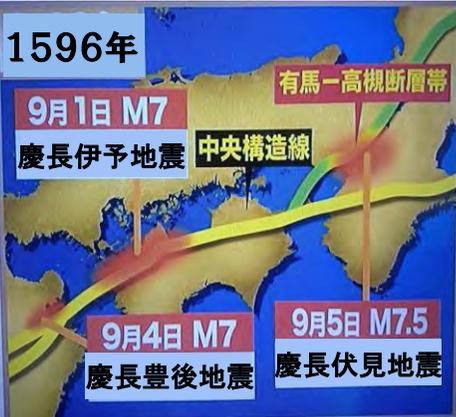
日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
安土桃山時代(一五七三年～一六〇三年)	<p>1585年7月31日 (天正:てんしょう13年7月5日) 大阪・京都で・伊勢・三河で大地震 第15代将軍(最後の将軍) 足利義昭(よしあき)</p>	<p>詳細は不明</p>	<p>◎安土桃山時代とは</p>  <p>織田信長・豊臣秀吉が政権を掌握していた時代。信長の居城安土城と秀吉の居城伏見城(桃山城とも)にちなむ名称。</p> <p>◎織田信長 織田信長は、1573年に足利義昭を京都から追放し室町幕府を滅ぼし、戦国時代の終結に最大の影響を与えた(安土城)</p>   <p>◎種子島銃(たねがしまじゅう) 火縄銃の称、1543年ポルトガル船が種子島に漂着2挺(ちょう)の鉄砲をもたらしたのに始まる。従来の戦法や築城法を一変させた。</p> 
	<p>1586年1月18日 (天正:てんしょう13年11月29日) 近畿から東海、北陸かけての広い範囲での大地震大津波が発生した。天正地震(東海東山地震、飛騨、美濃、近江地震)M7.8～8.1 養老断層(愛知県)、阿寺断層(岐阜県)の二つの断層活動と津波をもたらした断層活動の可能性が高い。 第15代将軍(最後の将軍) 足利義昭(よしあき)</p>	<p>死者多数 飛騨・越中などで山崩れ多数 白川郷で民家数百軒が埋まる 内ヶ島氏の岐阜県大野郡、帰雲城(かえりくもじょう)は山崩れで埋没 三河湾と若狭湾で大津波の記録が複数あり。 複数の巨大地震が同日発生の可能性がある。</p>	



一夜に崩壊した、帰雲城址

日本における大地震の歴史

時代	発生日・地震名・マグニチュード	被災状況	社会状況
安土桃山時代（一五七三年～一六〇三年）	<p>1590年3月21日 (天正:てんしょう18年2月16日) 安房(あわ、千葉県南部)で地震 豊臣秀吉(太政大臣)</p>	<p>2mの隆起があり。 潮が引いて3キロの干潟(ひがた)が形成された。</p>	<p>◎豊臣秀吉</p>  <p>織田信長の家臣で、信長の死後全国を治めた武将です。太政大臣になった時に「豊臣」の姓をもらいました。朝鮮半島出兵、太閤検地、刀狩、パテレン追放令などをおこないました。</p>
	<p>1596年9月1日 (文禄:ぶんろく5年7月9日) 伊予国(愛媛県)でM7の地震が発生した。四国を走る中央構造線断層帯での地震と考えられる。同年同月に発生した一連の内陸地震のさきがけとなる。(慶長伊予国地震)</p> <p>9月4日、大分でM7～7.8の地震が発生した。大分県を走る別府一万年山(はねやま)断層帯と考えられる。(慶長豊後地震)</p> <p>9月5日、京都市伏見でM7の地震が発生した。六甲・淡路島断層帯や有馬一高槻断層帯での地震と考えられる。(慶長伏見地震) 豊臣秀吉(太閤)</p>	<p>神社倒壊等</p>  <p>死者710人 地震によって瓜生島(うりゅうじま)と久光島の2つの島が沈んだとされている。</p> <p>死者1000人以上 伏見城の天守閣や石垣が損壊 余震が翌年の春まで続く。</p>	<p>◎服装</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="1247 654 1454 932"> <p>武家女子</p>  </div> <div data-bbox="1508 654 1715 932"> <p>武家の妻</p>  </div> <div data-bbox="1763 654 1970 932"> <p>民衆の婦人</p>  </div> </div> <p>◎食事(信長公のおもてなし料理)</p>  <p>堺の商人で茶人の津田宗及(そうぎゅう)が岐阜を訪れた際、信長公が振る舞われた料理です。</p>

※構造線とは、長さが数百キロメートルにわたって続くような大規模な断層のつながりのことをいう